

たはら 歴史探訪

TAHARA History Inquiry Club

クラブ 其の53

無音の警鐘(戦争の傷跡)

田原市博物館駐車場の片隅に、一風変わったモノがあるのはご存じでしょうか。高さ70cm、下部径約60cmのコンクリートの塊です。上部には鉄の取っ手があります。よく見るとどこかで見た形ですし、文様も...。そう、お寺にある鐘「梵鐘ぼんしゅう」と同じ形ですね。ところが、梵鐘のように中が空洞になっていませんし、ましてやコンクリートでは、主たる目的である音を鳴り響かせることもできません。本来は青銅でできている鐘が、なぜコンクリート製の模造品な

のでしょうか。

太平洋戦争末期は、長引く戦争によって労働力不足、物質不足に陥っていました。そして、少ない物資は軍需優先。兵器製造に必要な金属を集めるため、金属類回収令が出されたのです。

檀家の心よりどころであった寺院の仏具や釣鐘などだけでなく、さらには仏像、銅像、鉄びん、文鎮、学生服の金ボタンまで供出しなくてはならないほどでした。しかし慶長(1596・1614)以前に造られた梵鐘は、基本的に文化財として残されることになったようです。

この模造梵鐘があつた西円寺(野田町)の記録によると、昭和18年3



田原市博物館の駐車場にあるコンクリート製の梵鐘



梵鐘に彫られた文字

月16日に、大勢の檀家が見守るなか本物の梵鐘が供出されました。

檀家の心の人々の心の平和の象徴であつた鐘が、戦争のため取り上げられる。このような状況を人々はどんな気持ちで見送つたのでしょうか。鐘の側面には「昭和十八年二月大東亜戦線 記念」と彫られています。供出が決まつた早い時期に模造梵鐘は造られ、降ろされた梵鐘は供出までの間、檀家の方々とお別れをしていたのでしょう。質が良くない

いコンクリートは、戦時中の物質不足を物語っています。ところで、わざわざこのような模造梵鐘が造られた訳はいつい何だったのでしょうか。重量のある梵鐘が降ろされたことよつて、鐘楼のバランスが崩れないため、またお寺のシンボルとしての姿が失われないための、やむを得ない処置だったのでしょうか。



かつて模造梵鐘が吊り下がっていた西円寺の鐘楼(しょうろう)

今年、終戦60年を迎えます。50年の時には、全国各地で戦争の痛ましさを伝え、平和を願う式典が行われました。それから早10年。昭和がさらに過去の時代となりつつある現在、国内外に大きな悲しみ、苦しみ、そして不幸をもたらした戦争を知らない世代が増えてきています。この模造梵鐘は、私たちに戦争の悲劇を忘れないよう、今も無音の警鐘を鳴らし続けています。そして私たちは、この無音の警鐘を受け継がなければなりません。(増山)

生涯学習課 ☎23局3531